【鉄筋ハンドリングマシン】 リスクアセスメント *記入は後で書き込めるように、余白に余裕を持って行うこと。

【可能性】 可能性が高い 危険性が低い リスクの X =【評価点】 休業災害 可能性がある 評価方法 可能性が低い 危険性が高い 12~16 … Ⅳ:にとめられない作業→計画の変更 低減後 低減後 低減後 残留リスク 機械部分 設計上の対策 付加防護 危険要因 能性 安全防護 (作業標準にて周知) 機械装置の誤操作や予期せぬ誤作動 作業範囲の立入禁止措置 『作業範囲の立入禁止措置を行な 操作方法 作業方法 により、周囲の作業員が装置や材料 、操作者以外は装置の旋回方向及 と接触する。 び移動方向から退避する。 3 6 Ⅱ 塚操作時の指差呼称を徹底し、誤操 3 9 III 3 3 9 11 3 3 9 III 1 2 I 作の可能性を低減する。 運転席からの操作では、材料を設置 運転席を離れて、手元操作が可能な 把持部の操作スイッチは5m程度の 本体と手元の操作者が別々に操作す 操作方法 する位置での微調整がしにくい。 ケーブルを設け、運転者が運転席を 機構とする。 ることにより、重複操作や誤操作を 作業方法 離れて手元操作できるようにする。 する危険性が残存する。 (介錯作業が必要となり危険) 3 9 \blacksquare 3 3 Ⅲ 把持部の操作はペダル操作を必要と 3 3 Ⅲ ☞運転席での本体操作と操作スイッ 2 3 しないON/OFFスイッチ型に変更 チでの手元操作は、同一のオペレー し、本体を離れても把持部の操作が タで行なうことを徹底する。 ☞介錯作業の禁止を徹底する。 可能とする。(本体の旋回・起伏操作 はペダル操作が必要) 把持部操作ペンダントの押しボタン 安易に誤作動せず、直ちに停止でき ペンダント操作は、寸動操作(ボタ 操作方法 誤操作の危険性は残存する。 を誤って押し、把持部が誤作動す る操作スイッチとする。 ンを押している場合のみ作動)とす ☞操作時の指差呼称を徹底し、誤操 1 3 Ⅱ 作の可能性を低減する。 (挟まれ、接触、落下) 3 3 9 III 1 3 II 1 3 II 1 2 I 3 3 2 ☞介錯作業の禁止を徹底する。 マシン本体 過荷重により、マシン本体が転倒す 過荷重での作業制限を設ける。 最大重量を把持した状態で安全性を アラーム・ランプによる表示 材料が他に引っ掛かる等で制限内作 確保した作業半径を予め設定し、リ 業でも転倒する可能性は残存する。 ミッターにより本体アームの可動範 囲を制限する。 ☞作業範囲の立入禁止措置を行な 3 9 3 \blacksquare 3 1 3 II 1 2 I 3 3 3 い、操作者以外は装置の旋回方向及 び移動方向から退避する。 材料(鉄筋)の把持位置が揃わず、 マシン本体 材料の把持位置を揃える。 材料(鉄筋)の把持位置を定めて 材料が他に引っ掛かる等で制限内作 マーキングし、運搬台車にストッパーを装備して、3本の鉄筋端部が 過荷重 アンバランスな状態となり、 業でも転倒する可能性は残存する。 マシン本体が転倒する。 ■ 「『作業範囲の立入禁止措置を行な π揃う機構とする。 3 3 9 \blacksquare 3 3 1 2 I い、操作者以外は装置の旋回方向及 び移動方向から退避する。 鋭利な端部や角·突起物があり、使用 使用者が触れやすい場所は、触れて 装置内部に面取りや囲うことができ 把持装置 装置外周部は面取り加工を施す。 黄色塗装にて危険箇所を明示する。 者が触れて裂傷する。 も裂傷しにくい形状:加工とする。 ない箇所が残存する。 2 6 II 「写明示の箇所に触れる時は、皮手を 2 使用することを徹底する。 3 9 111 3 2 6 II 3 2 6 II 1 2 把持装置の回転部に手指を挟まれ 保護カバーを取り付け、手指を挟ま チェーンやスプロケット等の回転部 黄色塗装にて危険箇所を明示する。 修理・調整をする場合は、回転部に 把持装置 には保護カバーを取り付ける。 ない構造とする。 触れる必要がある。 3 2 6 Ⅲ ☞装置駆動源を遮断して行なうこと 2 3 3 9 3 2 6 II 3 2 6 II \blacksquare 1 2 I を徹底する。

持ち手以外に手を掛ける可能性が残 存する。 把持装置 可動部に手を掛けることにより、手 危険な部位に手を掛ける危険性を低 安全な箇所に持ち手(握把)を装備 持ち手部を別色塗装で明示する。 指を挟まれる。 2 6 II 写持ち手以外に手を掛けないことを 2 徹底する。 3 9 \blacksquare 2 6 II 2 6 II 3 3 3 1 2 I 把持装置 油圧ホースの破損により、把持が解 油圧低下時でも把持が解放されない 把持用油圧シリンダーの油圧同路に 作業範囲の立入禁止措置 衝撃等により材料が落下する可能性 圧力保持弁(パイロット弁)を設け 放されて材料が落下する。 が残存する。 て、把持圧力を保持する機構とす 1 2 I 写作業範囲の立入禁止措置を行な 1 3 Ⅱ る。 3 9 III 1 3 II 2 3 3 3 1 2 I い、操作者以外は装置の旋回方向及 び移動方向から退避する。 II - 2 - 2(5 - 1)

作標-1〔改訂:20110401〕

【鉄筋ハンドリングマシン】 リスクアセスメント *記入は後で書き込めるように、余白に余裕を持って行うこと。

リスクの評価方法	【重大性】 重大災害 : 4 休業災害 : 3 不休災害 : 2 上記に満たない災害 : 1	×			【可能性】 可能性が高い : 4 可能性がある : 3 可能性が低い : 2 ほとんどない : 1	=		【評価点】		\rightarrow		【評価】 1~2 ··· I : 危険性が低い 3~6 ··· II : 危険性がある 8~9 ··· II : 危険性が高い 12~16 ··· IV : にとめられない作業→計画の変更					
機械部分	危険要因	重大性	可能性	評価点価		低減 重 可 i 大 能 (i				低 減 可能性	評価価値	K 減		 残留リスク (作業標準にて周知) i	重大性	低 河 能性	就 後 評 評
把持装置	油圧ホースの破損により、把持が解放されて材料が落下する。	3	3	9 🏻	油圧ホースが破損する可能性を低減する。	3 1 3	3 1	油圧配管は、可能な限りホースの使用を避け、破断の危険性が低い鋼管を使用する。	3	1 :	3 1	作業範囲の立入禁止措置 2 1 :	2 I	衝突等で鋼管が破損する可能性が残存する。 『作業範囲の立入禁止措置を行ない、操作者以外は装置の旋回方向及び移動方向から退避する。	2	1	2 I
把持装置	油圧ホースの破損により、把持装置 がフリーとなり材料が振れる。	3	3	9 III	油圧低下時でも把持姿勢を保持する機能とする。	3 1	3 II	回転部は、ブレーキシリンダーにより現状位置を保持する機構とする。	3	1 :	3 11	作業範囲の立入禁止措置 2 1 :	2 I	衝撃等により材料が落下・荷振れする可能性が残存する。 「中業範囲の立入禁止措置を行ない、操作者以外は装置の旋回方向及び移動方向から退避する。	2	1	2 I
把持装置	把持力が過少であったり、リークに より把持力が低下して、材料が落下 する。	3	3	9 III	所定の把持圧力であることが確認で きる機構とする。	3 1 ;	3 II	把持圧力を検知して点灯する「保持 確認用表示ランプ」を操作手元に設け る。	3	1 :	3 II	3 1	3 1			1	2 I
										2321775							
										7s188	1063	950	1/225-	118 97 13 200 600 150 160 でい160am M16 0、FT.ド 把持部アタッチメン (計画図)	ント	-	